第30回日本受精着床学会
2012.08.30-31 大阪

体外受精胚移植における卵管水腫手術の有用性の検討

1)医療法人三慧会　IVF なんばクリニック、2)医療法人 IVF 大阪クリニック

○友崎　薫 1)、中岡　義晴 1)、角元　奈津子 1)、杉本　朱実 1)、杉原　研吾 2)
福田　愛作 2)、森本　義晴 1)

〔目的〕卵管水腫は単なる卵管通過障害ではなく卵管内貯留液の子宮内流入による胚発育および子宮内膜の障害や胚排出の可能性により体外受精の妊娠率低下と流産率上昇を起こし生児獲得の機会を減らしている。そこで今回、当院で実施した卵管水腫手術が体外受精胚移植に及ぼす効果について検討した。
〔方法〕当院で体外受精胚移植を実施している症例のうち子宮卵管造影により卵管水腫を認め、平成２０年１月から
平成２１年１２月の間に卵管水腫手術を実施した８症例を検討した。卵管水腫手術は腹腔鏡下卵管切除術を基本とした。女性の平均年齢は３２歳であった。卵管水腫手術前後の妊娠率、流産率、生産率および卵巣に及ぼす影響を採卵数と採卵直前のＥ２値により評価した。
〔結果〕卵管水腫手術前の胚移植数２４周期のうち妊娠成立が６例(25.0%)そのうち流産が４例(66.7%)であった。卵管水腫手術後は、胚移植数１６周期のうち妊娠成立が１０例(62.5%)そのうち流産２例(20.0%)であった。妊娠率は、有意に手術後が高かった。胚移植当たりの生産率は手術前後で 8.3%と 50%であり有意に手術後で高かった。卵管水腫手術前の採卵１０周期の平均採卵数は 7.3 個、採卵決定時の E2 平均値は 2,983pg/ml であり、卵管水腫手術後の採卵９周期の平均採卵数は 7.5 個、採卵決定時の E2 平均値は 2,420 pg/ml と手術前後で差はなかった。
〔結論〕卵管水腫手術により妊娠率は有意に上昇、流産率は低下し、生児獲得率は有意に改善した。また、体外受精における採卵数から卵管水腫手術による卵巣への影響は少ないと考えられた。